
緋弾のアリア 転校生は謎の武偵

キッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア 転校生は謎の武偵

【Zコード】

N8115X

【作者名】

キッド

【あらすじ】

戦乙女によつて緋弾のアリアに転生させられた主人公
そこでアリア達と原作をぶち壊す

誕生日おめでたのハロローグ（前編）

#3つOKERの誕生日で書いてこました
伸び書きいつも思って書いてきました

転生となりのハロローグ

此処は・・・『だ

『やあやあ

誰だ?この女

『私は神様だあ』

精神科、精神科、呑つた番号は

つと

『頭がおかしい訳じゃないー』

嘘だつつつ!!

『古いぞ』

ひぐりしをバカにするな!

それより此処はどこだ?

『いい加減喋りなよ

此処はあの世』

「ふざけてるヒジバくよ(怒)」

『じめんなさいじめんなさいでも本当なんですか~』

ちつ

「なんで此処にいるんだ?」

『私の事故であなたを殺しかやつたから』

「田を瞑つて歯を食いしばれ

『だから転生をせてあげるの』

『だから此処にいんのか

転生?』

『うん、この中から選んで』

緋弾のアリア

ガンダムSEED

ファイナルファンタジー

「死亡フラグ立ちまくりじゃん！！」

『しょうがないじゃん私戦乙女なんだから』

「俺を殺す気か！！！」

『緋弾のアリアに決定』

「勝手に決めんな！俺そ

『他のは今取られたよ』

リアルタイム！？

『たあ願いをいえ』

全ての銃を使いこなせる
アリア達と常に行動する
身体能力を高くする

『わかつたいつてこーい』

第壱話 出会い（前書き）

今回主人公の名前がわかります
次回のキャラ設定で読み方がわかります

よし状況を整理しよう

此処は武偵校の男子寮のようだ

「お、Jリリースに武器かなた……」Jリリースの武器

『クソ神聞こえるか?』

口語文

『この武器はなんだ?』

八
ア

お前は魔鏡ラグナロクとGX
死ヲ刻ム影が好きなのか?

死ニテ死ニテ景が如きかのう

『正解』

ちなみにGXでは粒子フレームも使えるから

十五

「あのダメ神何考えてんだよ！」

（一）「アーヴィングの死」（アーヴィングの死）

「（タイミングからしてアリアとキンジだろ

原作よりセグウェイの数多くね?」

「アリスが薫がれる事はない」

「まいいか」

助太刀しようか？」

俺が出てきた時、15台あったセグウェイの内8台がこっちを向いて撃ってきた

「魔銃ラグナロクよ、我求弾丸を装填せよ、
超電磁砲発射」

ラグナロク凄い威力だな

えつ、装填の台詞？ノリで言つただけ、本当はいらない

向こうも終わつたのかこっちにくる

「はじめまして・・・かな？」

ヒステリアの力を持つ少年遠山キンジ
そしてH家の娘神崎・H・アリア「

キンジ side

「助太刀しようか？」

1人の男子が茂みからすると8台のセグウェイがそっちをむく
「超電磁砲発射」

たつた一発で全てを粉碎した

俺も倒し終わると男子の方に向かつた

「はじめまして・・・かな？」

ヒステリアの力を持つ少年遠山キンジ
そしてH家の娘神崎・H・アリア「
何故その事を知つている！？」

主人公 side

「お前らの名前知つていて、俺の名前を知らないじゃアンフェアだな

俺の名前は煌 ヒロキだ

これが神に転生させられた煌 ヒロキヒアリヤア達との出会いだつた

第一、伍話キャラ設定

煌
ヒロキ きら
ひろき

神に転生させられた少年

青色

青色の風 暗の色に紹
身長はキンジより少し

ちなみに猫が苦手

文の訂正

D G
G X
X です 5 ではなく

文字数稼ぎ

A vertical column of 21 crosses. The first cross is a solid black cross. The subsequent 20 crosses are dashed black crosses, with the vertical stroke being a solid line and the horizontal stroke being a dashed line.

第三話 取が凶かと聞かれたら凶（前編）

サブタイトルが思いつかない汗

第3話 古が凶かと聞かれたら凶

アリアとキンジにあつていざ教室へ！

『もし、神、聞こえるか？』

『聞こえるよ』

『俺つて転校生？』

『前からいることになつてるよ、クラスは2・Aね』

2・Aか、あいつ等と一緒に

『ちなみにオーラ使えるから

あと、陸奥圓明流も使えるようになつたから』

いつの間に！

あ、途切れた

2・A

ここか

とりあえず席につく

「先生、私あいつの隣がいい」

「ぶーっ」

「どうした！？」

「なんでもない、気にするな」

きつたねえな

「先生俺転校生と席変わります」

お、右にアリア、左に理子

これは

からかいチャンス

「良かつたな遠山キンジ、両手に花じやないか」

「な、うるせえ」

「はい、あんたのベルト」

「わかつた、これフラグバッキバキにたつてるよ」

まあな

バーン
チツ

「恋愛なんてくだらない、そんな事言つてる奴には風穴開けるわよ」

「 オイ 」

バババツ

全員がこっちをみた

「いてえな弾かすつたなあ」

頬からは血が流れていた

ペロツ

「お前二風穴アケてヤろうカ?」

「ヒロキ落ち着け!!」

ちつ、武藤に救われたな

「威嚇発砲するときは人の位置を確認してからやれ」

昼休み

俺は理解棟の屋上にいる

昼飯はウイーダーホゼリー

「そういえば朝ねアリアがキンジの事探つてたよ

「あたしにはヒロキについて聞かれたよ」

俺もかよ、キンジだけで十分だろ

「てきとーにキンジのは『昔は強襲科で凄かつたんだけどねー』って答えて

ヒロキのは『レキみみたいにロボットだよ』って答えた

俺ロボットかよ!

頭痛くなってきた、帰ろ

放課後

「ん? 何だこれ?

デザートトイグルにドラグノフ狙撃銃?」

手紙だなになに

『チャオつす「いきなり他の漫画のネタ使うなー！」いきなり怒鳴らないでよね「怒鳴らせてんのは誰だよ」それより、その二つはプレゼント、あと空き部屋にメンテナンス道具あるから、出来るだけ、DG Xと死ヲ刻ム影、ラグナロクは使わないでね、非常時以外は』

きわめて了解

ピンポン。

チヤイムが、このタイミングでこの挙し方はアリアか、隣はキンジの部屋か

シンボンシンボーン

ノーリー

確かにこれはウサい

そろそろ出るし、アリアの奴隸になれ宣言聞けるかな？

「そこ」と決まれば侵入開始

「 キノゾ。あんた あんの奴隸一派つねや二二二

ヰタニ

「あー、う前ー、

やべ！見つかった

「三十八計逃げるにしかず」

多分ここに来んな

ところ、井タ井タ

「遠山夫妻仲良く買い物かな？」

「夫妻じゃねえ！」

「お前は用が済んだのか？」

「晩飯とかだ」

中身、ウイーダーニーベリーグレープ味×8

「大丈夫なのか、それで」

「現に生きている」

「あんた、女子の言つたとうつロボットみたいね、時々人間らしくなるけど」

「関係ない」

俺は帰る。そうだ、遠山キンジ、神崎・H・アリアと組め、そうすれば、お前の欲した真実がわかる。」

「待て！」

「まだ何か？」

「お前は何者だ！？」

「選択肢をやろう」

「選択肢？」

「1. 神崎かなえをスケープゴートにしたイ・ウーのメンバー」

「なつ！」

「2. ただの狙撃科のSランク武僧」

「え、Sランク！？」

「3. 死を知つたもの、言い換えれば死を体感した者」

「あんたどれが本当？」

「それを言つては意味がない

もし1だと言つたら？」

「あんたを逮捕して、ママの無罪を証明させてやるーー」

「そんで、懲役864年から懲役742年に減らすか？」

「あんたどこまで」

バラすか

「バラしてやるよ、1はハズレだ、良かつたな、オルメス」

「本当に何者！？」

「答えは、消去法で行けば3、だな？」

「遠山キンジ君正解

俺は死を体感した者。少しなら未来も分かる
だが、教えたりしない

最後に1つ、そこにはお前らの家族がいるかもな
話は終わりだ、じゃあな

部屋

言い過ぎたかな？

少しメンテして寝よ

「神が原因だなやり方が分かる」

「いくら狙撃科だから壁に寄りかかって寝るとかむ

寝れたわwww

第参話 強襲科《アサルト》（前書き）

サブタイトルが浮かばない
ある意味スランプ

第参話 強襲科《アサルト》

さて、確かに今日はキンジとアリアが猫探しをするんだつたな
お前は行かないのかつて？

ふつ、理由は簡単・・・それは俺が猫アレルギー DAKARAだ！
にしても、隣 キンジ達が五月蠅い

「この・・・・疫病神・・・・め！」

「熱いね、遠山夫妻、夜道に気をつけな」

放課後、狙撃科棟から見ていた。神曰く俺の視力は両方とも7・0
だそうだ。

レキより見える

どうりで見えすぎる筈だ

まあ俺がウイーダー飲んでる（食つてる？）隣でレキがカロリーメ
イトを食つてた

「レキ、それがお前の主食か？」

「はい

ウイーダーだけのアナタと似てます
知られてた！？

「食うか？」

俺は力バンからもつ一つ出してレキに渡した

「ありがとうございます。どうぞ」

レキはカロリーメイトをくれた

お互い貰つたもの食いながら

「レキ、別に敬語じやなくて良いぞ」

「？」

わかつてないつて顔だな

ナデナデ

「何ですか？」

「ワリワリつい、お前が可愛くて

それに、何？で良いんだよ」

「わかつた／／／」

顔が少し赤い。風邪か？

「カロリーメイトうまいな。今度買お

「私も買ってみる」

その後できとーに解散になった。

レキと帰ったけど

だいぶ親しくなった

「（原作より口数増えたな）」

【お前が原因だ】

変な電波キャッチした

翌日

今日は強襲科に行く日だな

俺も行こ

「ん、遠山キンジか

「お、ヒロキか」

「どうした？」

まるで 峰理子に神崎・H・アリアの情報を頼んでその後台場で
買った1980円で買った腕時計を壊されて、壊れたお前の腕時計
を胸にしまわれてうつかり峰理子の金色のブラがみえてしまった
みたいな顔だぞ

「どうかで見てたろーーー！」

ヤバい楽しい

にしてもよく覚えてるよな原作、一巻以外のことも曖昧だがわかるし

「じゃあな
嫁によろしく
「おまえなあーー。」

來たぜ強襲科アサルト！

「キンジは・・・・いたいた」

「あ！おまえは！強襲科Aランクのヒロキ！転科してくれんのか！？」

いきなり三上に話かけられた

『おい神よ』

『なに？』

『何故強襲科Aランクなんだ？』

『それはお詫び。

狙撃科以外はAランクだよ』

マジかよ

「あんた、Aランクってどう違うの？」

「知らん」

「私は認めない。

勝負よ！！」

「拒否権は？」

「無じわよ！」

やつぱり？

「どこでやんだ？」

「あそこよ」

アリアが指差したのは、小さくもなくテカくもない透明な箱

「ルールはお前が戦闘不能になつたら俺の勝ち。

俺を一回でも地面に倒したらお前の勝ち

「面白いこと言つなあじやあ始めー！」

強襲科担任蘭豹の合図で始める

ズババババン

ガバメントを乱射してくる

DEを発射する

「母子」

だが決定打にはならない

陸奥圓明流を見せてやる

「銃をしまつておひきかへつけー!」

「しつかり見てろよ

陸奥圓明流 · · ·

なたのせいにせりのたまは二つ並んで

「フィニッシュを入れないだけありがたく思えよ。」

もつて3秒

パタン

「あれ？身体が動かない」

「そりや無空波體ひりたからね
力はア バンニハ うーべー イカギー

力はセリフ

「本当に何者!?」

「武偵なら自分で調べな

「わかった。調べてやるひじなー」「

「じゃ、あと、ゲーセンでもあるから

ゲーセン

さて、そろそろ帰るか

「・・・・・・・・・・・・」

はあ

なんであいつ等に会わなきゃなんねえんだよ

そう頼んだの俺だけじさ

「白雪に報告しとくか」

「それは止める!」

同感

あんなバーサーカーに会いたくないし

さて、明日はバスジャックの日だなどうすっか

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8115x/>

緋弾のアリア 転校生は謎の武偵

2011年12月27日19時47分発行